



Asian River Restoration Network

アジア河川・流域再生ネットワーク

Annual Report 2008

年次報告



目次

■ご挨拶	1
玉井 信行	ARRN 会長
Ms. Zhimin Meng	CRRN 事務局長
Dr. Hyo Seop Woo	KRRN 事務局長
佐合 純造	ARRN・JRRN 事務局長
■アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）について	5
ARRN 設立の背景	
ARRN の目的	
ARRN の活動内容	
■ ARRN の主な活動報告（2008 年）	7
活動概要（2007 年 11 月～2008 年 10 月）	
国際フォーラム・ワークショップ	
ホームページ・ニューズレター	
河川・流域再生に関するガイドライン構築	
運営会議	
常設委員会	
国際交流・広報活動	
■ 各国内ネットワークの活動報告（2008 年）	18
中国河川・流域再生ネットワーク（CRRN）	
韓国河川・流域再生ネットワーク（KRRN）	
日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）	
■ ARRN 組織体制及び会員	28
ARRN 組織体制	
ARRN 会員	
ARRN 運営事務局	
■ 参考資料	31
第 4 回世界水フォーラム・自然再生分科会の提言（2006 年 3 月・メキシコ）	
ARRN 加入方法	



ARRN が設立されて 2 年が経ちました。また昨年 11 月には、ARRN と CRRN が共催で「第 5 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」を第 4 回 APHW 国際会議の特別セッションとして北京で開催することが出来ました。ARRN の実りある活動に貢献頂いた方々、そして ARRN 事務局の方々の熱心な活動に対し、この場を借りて謝意を表します。

中国における急速な経済発展の中で、私たちは生態系や環境問題に対し意識することの大切さを学びました。そして、「生態環境を失うことを基本的に抑制する」という大目標が、第 11 次中国国家 5 カ年計画の中で明確に位置付けられました。この長期計画に基づき、中国の水関連部署は、統合水資源管理を基本とした中で、バランスある方策を見出しながら社会資本整備を進めております。

近年、中国水利水電科学研究院 (IWHR) では、河川の保全や再生に向け、理論的な研究や実用的な技術開発、また技術指針の作成等に積極的に取り組んでいます。また同時に、IWHR では河川保全や再生分野における国際的協力や交流を進めており、専門家達を様々な国際会議や世界水フォーラムなどの重要な水関連行事へと派遣し、満足できる成果を生み出しつつあります。

ARRN は、河川再生に関わる最新の情報や優れた経験を共有し、また世界中の専門家や研究者と相互理解を深め協力する上で欠かせない活動基盤と言えます。ARRN がアジアの河川の持続的な発展に貢献し、その結果、人類と私たちの川に幸福をもたらすであろうことを私は確信しています。私たちは地球という同じ世界で暮らしているのですから。

Ms. Zhimin Meng 中国河川・流域再生ネットワーク (CRRN) 事務局長
(中国水利水電科学研究院 特別国際アドバイザー)



玉井会長をはじめとする日本の関係者のリーダーシップにより、ARRN が誕生し 2 年が経過しようとしています。先日は中国水利水電科学研究院にて第 3 回 ARRN 運営会議が無事開催され、これは ARRN が着実に、また期待通り発展していることの証と感じます。

2008 年には、KRRN による強力な支援のもと、「第 4 回河川環境に関わる国際ワークショップ（6 月 2 日～4 日、Ilsan）」や「第 6 回日韓河川生態と河川工学に関する共同セミナー（8 月 18 日～19 日、Jinju）」が開催されました。また、ARRN の方針に基づき、KRRN でも情報委員会及び技術委員会の二つの委員会を立ち上げ、情報委員として Dr. Hong Koo Yeo（所属：KICT）氏が、また技術委員として Dr. Kyu-Chang Oh（所属：Dongbu Engineering Co. Ltd.）が活躍されました。

韓国では、今後数年間は河川再生が特に注目される年となりそうです。なぜなら、2009 年 1 月に、韓国政府が約 100 億 U S ドルにも及ぶ大規模な河川再生事業を表明しました。Han River や Nakdong River をはじめとする韓国 4 大河川を対象に、都市河川の景観を再生し、郊外や山間部も含め、洪水防御と生態系保全の両立を図りながら河川再生を推進することとなりました。更には、新規に建造される多目的ダム及び既設の 100 に及ぶ農業ダムにおいて貯水容量を増やすことも決まり、これは環境流量として下流に放流することに大いに寄与することでしょう。こうした事業は 2014 年まで行われる予定ですが、様々な部門の学者や実務者と共に、KRRN の専門家も計画や設計に関与することになっています。

最後に、KRRN の更なる発展に向け、2009 年からは、これまでの事務局組織が KICT（韓国建設技術研究院）から KRA（韓国河川協会）に移ることをご報告します。KRA は、韓国において河川再生分野に強みを持つ非営利団体です。引き続き、KRRN がアジアの河川の持続的発展に貢献することを確信するとともに、韓国の河川はもちろん、世界中の川と共に暮らす人々に幸福をもたらすであろうことを信じて疑いません。

Dr. Hyo Seop Woo 韓国河川・流域再生ネットワーク（KRRN） 事務局長
（韓国建設技術研究院 KICT）

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)について



ARRN 設立の背景

河川は元来、治水・利水の対象のみならず、農業・漁業・物質輸送等、人々の生活基盤を支える資源の一つであり、人々は河川・水辺を中心に社会生活や生産活動を営んできました。しかし、高度経済成長期の人口増加と沿川の人口集中化は、流域の経済発展と引き替えに河川の浄化能力を損なう結果となりました。その結果、汚濁の進行、河川環境や歴史・文化の損失を招き、近年はアジアの多くの地域において共通の社会問題となっています。

一方、欧米諸国では先行的に生態系や浄化能力等の河川が本来持っている能力の再生保全の取り組みが行われています。また、アジアでも失われた河川機能を回復し、河川環境を再生すると共に、河川に新たな価値を見出す事例が多く報告されるようになりました。こうした時勢において、類似した気候や地形条件を有するアジア地域を中心として、河川・流域再生に関する事例・工法・関連出版物・学識専門者等の情報を交換し、互いにより質の高い環境再生、保全の技術を培うためのオープンな組織が求められています。

2006年3月にメキシコシティで開催された「第4回世界水フォーラム」の自然再生に関する日本、中国及び韓国3ヶ国合同分科会において、河川・流域再生の情報交換ネットワークやデータベースの構築、及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生ガイドラインの作成に向けたアジア諸国連携の必要性が提唱されました。この合同分科会での提言を引き継ぐ形で、2006年11月に東京で開催された『第3回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』の場で、「アジア河川・流域再生ネットワーク」(ARRN: Asian River Restoration Network)が日中韓の関係機関をメンバーとして正式に設立されました。

ARRN の目的

ARRN は、非政府組織としての中立の立場で、以下の二つを主な目的として、アジアの豊かな水環境の創造に寄与することを目指します。

- イベントの開催や Website を通じ、アジア地域をはじめ世界各国の河川・水辺の再生に関する事例・情報・技術・経験等を、技術者・研究者・生態学者・行政担当者、そして市民で交換・共有する仕組みを構築すること。
- 類似した社会・自然環境を有するアジアモンスーン地域で利用できる河川・流域再生ガイドラインを構築し、ネットワーク参加者の知識・技術の向上を図ること。



Korea



China

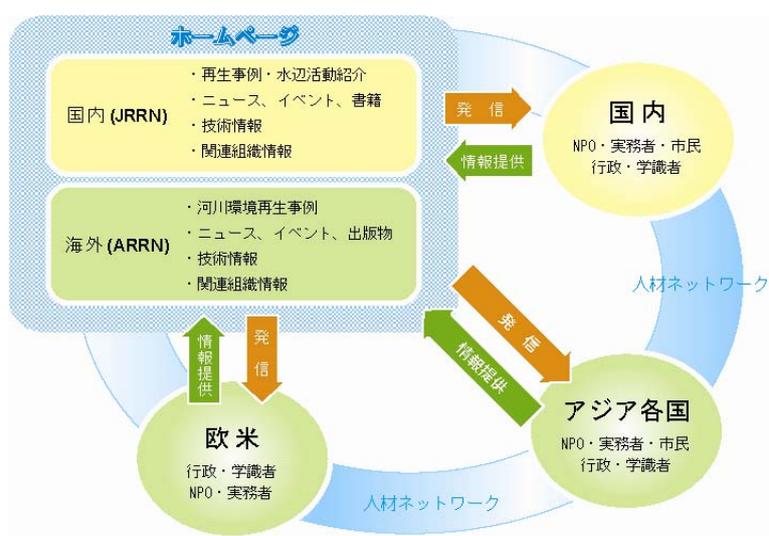


Japan

ARRN の活動内容

ARRN は、上記の目的の達成に向け、次の活動を行います。

- 河川・流域の再生をテーマとした国際フォーラムやワークショップの開催
- 水辺再生の関連情報を Web サイトやニュースレター等で公開
- 河川・流域再生に関するガイドラインの作成・普及
- 各国・地域内ネットワーク間での講師・専門家派遣、現地視察企画等の支援
- 河川環境に関する調査研究・出版・広報活動等



ARRN の情報循環イメージ

ARRNの主な活動報告(2008年)

ARRNの主な活動一覧 (2007年11月～2008年10月)

年	月日	活動の種類	活動内容	開催場所
2007	11月29日	交流・広報活動	韓国東豆川市関係者 意見交換	日本(東京)
	11月30日	イベント開催	第4回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム 開催	日本(東京)
	12月1日	会議開催	第2回 ARRN運営会議 開催	日本(東京)
	12月2日～3日	イベント開催	APWS(大分)参加及びオープンセッション共催	日本(大分)
	12月7日	交流・広報活動	韓国の河川情報発信に関する調査団 意見交換	日本(東京)
	12月11日	情報発信	ARRN年次報告書2007 配信・web公開	
2008	1月9日	交流・広報活動	NARBO(アジア河川流域管理機関ネットワーク)事務局 意見交換	日本(東京)
	1月9日	交流・広報活動	PEMSEA(国連東アジア海域環境管理局)事務局 意見交換	日本(東京)
	2月20日～22日	交流・広報活動	第3回 NARBO(アジア河川流域機関ネットワーク)総会 参加	インドネシア(ジャバ)
	5月28日	交流・広報活動	韓国水生生態復元事業団 意見交換	日本(東京)
	6月4日～8日	交流・広報活動	韓国河川協会視察団 来日支援	日本(石川)
	6月26日	交流・広報活動	英国リーズ大学環境学部研究員 ウルリカ・オーベリー氏 意見交換	
	7月15日	交流・広報活動	韓国「健やかな道林川をつくる市民の会」 意見交換	日本(東京)
	7月31日	情報発信	ARRN Newsletter Vol.1 創刊	
	9月16日	イベント開催	ARRN河川環境講演会「環境水工学の最新の研究紹介」 開催	日本(東京)
	9月24日	会議開催	第1回 ARRN情報委員会 開催	中国(北京)
	9月24日	会議開催	第1回 ARRN技術委員会 開催	中国(北京)
	11月4日	イベント開催	第5回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム 開催	中国(北京)
	11月4日	会議開催	第3回 ARRN運営会議 開催	中国(北京)
	11月5日	交流・広報活動	第4回 APHW国際会議 参加	中国(北京)



第4回ARRN国際フォーラム主催



ARRN河川環境講演会主催



韓国河川協会視察支援



第3回NARBO総会参加



第1回ARRN技術委員会開催

国際フォーラム・ワークショップ

第4回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (2007年11月30日：東京)

2007年11月30日(金)、ARRN主催「第4回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」が開催され、多くの方々にご参加いただきました。第4回目を迎えた本フォーラムでは、都市の発展と水辺の再生に着目し、隅田川における河川再生の話題を基調講演に、韓国、中国、タイ、イギリスにおける河川再生に関する事例が紹介されました。また、その後開催された総合討論では、「街づくりと河川の保全・再生」をテーマに様々な意見交換が行われました。

ARRN
Asian River Restoration Network

第4回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (2007.11)
「街づくりと河川の保全・再生」
～ アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN) ～

The 4th International Forum on Waterfront and Watershed Restoration
「Urban River Restoration for Sustainable Development」 (November, 2007)
～ Asian River Restoration Network (ARRN)～

日時 : 2007年11月30日(金) 13:00-17:00
会場 : 全国都市会館2F 住所 東京都千代田区平河町 2-4-2
主催 : アジア河川・流域再生ネットワーク (財団法人リバーフロント整備センター)
後援 : 国土交通省(MLIT)、東京都建設局、中国水利水電科学研究所(IWHR)、
韓国建設技術研究所(KICT)、応用生態工学学会(ICES)、(財)建設コンサルタント協会(JCCA)、
日本水フォーラム(JWF)

Date/Time : November 30th 2007, Friday, 13:00-17:00
Venue : Zenokoku Toshu Kaikan (2F) Address: 2-4-2 Hirakawa-Cho, Chiyoda-Ku, Tokyo
Organizers : Asian River Restoration Network (Foundation for Riverfront Improvement and Restoration)
Supporters : Ministry of Land, Infrastructure and Transport (MLIT)
Bureau of construction TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT
China Institute of Water Resources and Hydropower Research (IWHR)
Korea Institute of Construction Technology (KICT)
Ecology and Civil Engineering Society (ICES)
Japan Civil engineering Consultants Association (JCCA)
Japan Water Forum (JWF)

「水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」は河川整備基金の助成を受けて実施します。
また、本フォーラムは、土木学会継続教育 (CPD) 制度のプログラムとして認定されています。

第4回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム(2007.11)
「街づくりと河川の保全・再生」
～ アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN) ～

開催にあたって
現在、世界的に水辺・流域再生に関する活動や研究が実施されています。今後、より効率的かつ効果的な活動等を実施するためには、各国内にとどまらず、国内外との情報の交換で知識の共有を図ることが有効であると考えられます。
第4回世界水フォーラム「自然再生分科会」での提言を踏まえて、2006年11月に中国、韓国、日本の3カ国を軸にしたアジア河川・流域再生情報ネットワーク「Asian River Restoration Network(ARRN)」は設立しました。
本フォーラムでは、都市の発展と水辺の再生に着目し、ARRNの関係諸国を中心に各国の河川再生プロジェクトについてご紹介します。

(敬称略)

■開会
13:00～13:05 開催挨拶 (財)リバーフロント整備センター 理事長 竹村 公太郎
13:05～13:10 来賓挨拶 国土交通省河川局 河川環境課 課長 中嶋 章雅

■特別講演
13:10～13:40 隅田川を中心とした河川再生
東京都建設局 河川部計画課 課長 長島 修一

■海外事例紹介
13:40～14:10 事例紹介1 韓国:韓国の河川再生プロジェクト
韓国建設交通部 河川計画課 課長 キム サクヒョン
14:10～14:40 事例紹介2 中国:長江における“四大家魚”の産卵環境再生について
中国水利水電科学研究所 水環境研究所 副所長 リャオ ウェンゲン
14:40～15:10 事例紹介3 タイ:タイの河川・湿地再生に関する取組み
タイ天然資源環境省 水資源局水資源政策計画部 部長 スラポール バタニー
15:10～15:40 事例紹介4 イギリス:ヨーロッパの河川再生に向けた政策と情報交換
河川再生センター センター長 マーチン ジェーンズ
【休憩 15:40～15:50】

■総合討論
15:50～17:00 総合討論「街づくりと河川の保全・再生」
座長:玉井 信行 ARRN会長、金沢学院大学大学院 経営情報学研究所 教授、
東京大学 名誉教授
パネリスト:
韓国建設交通部 河川計画課 課長 キム サクヒョン
中国水利水電科学研究所 水環境研究所 副所長 リャオ ウェンゲン
東京都建設局 河川部計画課 課長 長島 修一
タイ天然資源環境省 水資源局水資源政策計画部 部長 スラポール バタニー
河川再生センター センター長 マーチン ジェーンズ

17:00 閉会

※「水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」は河川整備基金の助成を受けて実施します。
また、本フォーラムは、土木学会継続教育 (CPD) 制度のプログラムとして認定されています。

国際フォーラム当日の配布資料



講演の様子



懇親会



終了後の記念撮影

第1回アジア・太平洋水サミット オープンセッション（2007年12月4日：別府）

2007年12月3日～4日にかけて、第1回アジア・太平洋水サミットが大分県別府市で開催されました。

12月2日に開催された「河川環境と水資源を考えるシンポジウム」には、ARRN第4回国際フォーラムの講師として招聘した韓国建設交通部河川計画課課長 Mr. Sukhyun Kim氏がパネリストとして参加しました。また、12月4日に開催された講演会「生態系と発展のための水～日本の経験とアジア・太平洋地域での展開」ではARRN事務局関係者が共催者として参加するとともに、KRRN事務局を務める韓国建設技術研究院 Dr. Changwan Kim氏が講演し、韓国河川再生の話題に加え、ARRNのPRを行いました。



第1回アジア・太平洋水サミット会場にて

ARRN 河川環境講演会～環境水工学の最新の研究紹介（2008年9月16日：東京）

2008年9月16日（火）、ARRN主催「河川環境講演会～海外における環境水工学の最新の研究紹介」が開催され、生態環境工学及び環境水工学の分野で世界的に活躍する二人の研究者をお招きし、河川再生や水環境改善に関わる最新の技術紹介と意見交換が行われました。

○総合司会： IAHR 会長・ARRN 会長 玉井信行先生

○講師： IAHR 副会長 Mr. Peter Goodwin氏、IAHR 副会長 Mr. Joseph Lee氏

Asian River Restoration Network (ARRN) 他主催
河川環境講演会
～ 海外における環境水工学の最新の研究紹介 ～

講師： IAHR 副会長 ピーター グッドウィン 教授
IAHR 副会長 ジョセフ リー 教授

開催にあたって
河川再生・河川環境を包括的に定めた分野は、知識情報工学(informatics)、生態水工学(ecohydraulics)、環境水工学(environmental hydraulics)です。今回この3分野で世界的に活躍する二人の研究者を招いて最新の知見を講演して頂くとともに、国際的な情報交換の機会として総合司会の時間を予定しております。生態環境工学、環境水工学に関心をお持ちの研究者、実務技術者の来場をお待ちしております。

○開催日時： 平成20年9月16日（火）13:30～17:20（運次調整）
○開催場所： 東京大学工学部1号館15号講堂（東京都文京区本郷7-3-1）
○参加費： 3,000円（参加費は当日受付にてお支払い下さい）
○定員： 100名（申し込み順）
○主催： Asian River Restoration Network (ARRN)
韓国法人リバーフロント整備センター
国際水工学会 日本支部
(International Association of Hydraulic Engineering and Research)
○後援： 社団法人建設コンサルタンツ協会
○お問合せ： 財団法人フロント整備センター 技術普及部内 ARRN 事務局
(E-mail: info@arrn.net) Tel: 03-3265-7121

Asian River Restoration Network (ARRN) は国際的に河川再生に関する知識、技術情報の交換を行う国際ネットワークです。日本国内及びアジア諸国を中心とした多くの方が参加し、最新技術・研究成果を交流する国際的な河川・環境再生に関するコミュニティーを構築し、各現場に確実な河川の再生技術の発展に寄与するものです。
URL: /www.arrn.net/jp/en/arrn/index.html

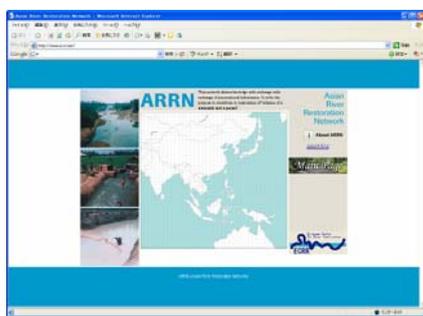


講演会の様子（東京大学にて）

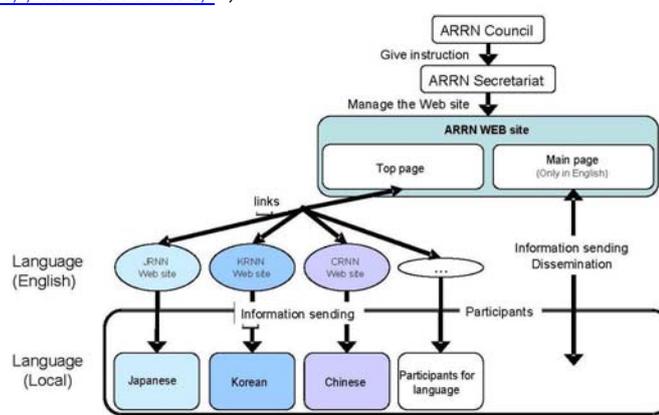
ホームページ・ニューズレター

ARRN ホームページ

ARRN ホームページは、ARRN メンバー間で河川再生に関わる様々な情報を交換し、また共有する上で有用な手段であり、現在試行版を公開中です。2009 年前半までには ARRN ホームページのリニューアルを予定しており、過去のイベント情報やガイドライン等のデータベース機能を追加します。なお、ARRN ホームページの基本構成は以下の図の通りであり、各国内ネットワークである RRN ホームページを充実させ、現地の言語と英語の両方でのウェブ環境整備を進めております。 ⇒ ARRN ホームページ (<http://www.a-rr.net/>)



ARRN ホームページのトップ画面



ARRN ホームページの基本構造

ARRN ニューズレター

2008 年 7 月より、英語による ARRN ニューズレターを 3 ヶ月に 1 回の頻度で配信しており、ARRN の活動に関係者間で共有する上で有効な手段となっています。今後、ARRN 会員また各 RRN のメンバーの方々によりご投稿頂いた記事は、ARRN 事務局が取りまとめる役目を担い、ニューズレターへ掲載していきます。

なお、バックナンバーはホームページよりダウンロード可能であり、詳細は以下の URL をご参照下さい。

バックナンバーURL: <http://www.a-rr.net/jp/en/arrn/letter/newsletter/>



河川・流域再生に関するガイドライン構築

第4回世界水フォーラムの自然再生セッションにおいて、国際ネットワークの必要性とガイドライン(案)を作成し河川再生技術の向上を図る必要性が提言されました。そこで、アジア地域の河川・流域再生を目的としたガイドラインを作成することをARRNの重要な役割の一つと位置づけ、河川再生のガイドライン(案)の作成を行っています。

2008年より中国・韓国・日本の三ヶ国の専門家で構成される「ARRN技術委員会」を設立し、ガイドライン構築について継続的な協議を続け、その成果は定期的に社会に発信していきます。

- 対象者：アジア諸国の河川・流域再生に携わる者すべて
- 内容：第3回世界水フォーラム(2002年3月)の『自然再生分科会』において作成されたガイドライン(案)をベースに、アジアの特徴である都市河川再生の視点、また事例紹介等を含め内容を拡張する。
- 作成体制：中国・韓国・日本の専門家で構成される「ARRN技術委員会」の協議事項を反映しながら、ARRN事務局がそのとりまとめの役目を担う。
- その他：ガイドライン構築の進捗はARRNホームページを介して発信するとともに、中間成果についても、世界水フォーラム等の行事に合わせ積極的に公表していきます。

ガイドライン構築の準備段階として、河川再生に関わる既存のガイドライン類(約70種類)の収集を終えています。ARRN事務局では、ガイドラインの作成と合わせ、これら既存ガイドライン類にwebsiteを通じてアクセスできる環境整備も進めております。

ガイドライン URL: <http://www.a-rr.net/jp/book/guideline/index.html>



ガイドライン掲載ページ

運営会議

ARRN の運営方針は、各国内ネットワークの代表者よりなる「運営会議」にて決定することが ARRN 規約（巻末参考資料参照）により定められており、例年、ARRN 国際フォーラムの開催と合わせて年一回開催されています。

第 2 回 ARRN 運営会議（2007 年 12 月 1 日：東京）

2007 年 12 月 1 日（土）に第 2 回 ARRN 運営会議が東京にて開催されました。この会議では、はじめに ARRN 設立後 1 年間の活動内容報告として、ARRN 事務局より「年次報告 2007」の説明が行われ、会議の後半では、審議と意見交換を通じ、組織体制、次年度の活動内容、次期事務局に関する話題などについて議論を行ないました。

■会議参加者

（座長）

玉井 信行

ARRN 会長

（議員）

Dr. Xiaogang Wang

中国水利水電科学研究院 副院長

Dr. Wengen Liao

中国水利水電科学研究院 水環境研究所 副所長

Dr. Kook-il Kim

韓国河川協会 会長

Dr. Changwan Kim

韓国建設技術研究院 河川海岸研究部 首席研究員

佐合 純造

(財)リバーフロント整備センター 技術普及部長

伊藤 一正

(財)リバーフロント整備センター 技術普及部上席参事

（オブザーバー）

Mr. Sukhyun Kim

韓国建設交通部 河川計画課長

Mr. Martin Janes

英国河川再生センター長(RRC)

Mr. Surapol Pattanee

タイ国天然資源環境省水資源局水資源政策計画部長

砂川 孝志

(財)リバーフロント整備センター 専務理事



運営会議の様子（2007 年 12 月 1 日・東京）

常設委員会

2007年12月に開催された第2回ARRN運営会議において、ARRNの今後の活動内容や情報循環策について議論するための「情報委員会」、及びARRNとして保有すべき技術やアジア版河川再生ガイドラインのあり方について議論することを目的とした「技術委員会」の二つの常設委員会設立が決められました。

その後、ARRNの運営会議を構成する韓国・中国・日本の三カ国よりそれぞれの委員会に1名ずつの委員が選任され、「ARRN情報委員会」及び「ARRN技術委員会」が2008年7月に設立されました。

ARRN 情報委員会メンバー

- China-RRN: Prof. Wengen Liao
(中国水利水電科学研究院)
- Korea-RRN: Dr. Hong Koo Yeo
(韓国建設技術研究院)
- Japan-RRN: 伊藤 一正
(リバーフロント整備センター)

ARRN 技術委員会メンバー

- China-RRN: Prof. Hao Wang
(中国水利水電科学研究院)
- Korea-RRN: Dr. Kyu Chang Oh
(東部エンジニアリング株式会社)
- Japan-RRN: 中村 圭吾
(独立行政法人土木研究所)

第1回ARRN情報委員会(2008年9月24日:北京)

2008年9月24日(水)午前に、「第1回ARRN情報委員会」が中国・北京(中国水利水電科学研究院)にて開催されました。

本委員会では、ARRNの今後の活動方針やARRNメンバー内での河川再生に関わる情報交換のあり方、また各国内ネットワーク(RRN)の活性化策等について議論が行なわれ、この協議結果は第3回ARRN運営会議(2008年11月開催)に反映されARRN活動方針として取りまとめられます。

■会議参加者

(情報委員)

Dr. Wengen Liao (IWHR 中国水利水電科学研究院・水環境研究所副所長)

Dr. Hong Koo Yeo (KICT 韓国建設技術研究院・上席研究員)

伊藤一正 (RFC リバーフロント整備センター・上席参事)

(ARRN事務局)

和田彰、伊藤将文 (RFC リバーフロント整備センター)

(オブザーバー)

Ms. Zhimin Meng (CRRN 事務局長、IWHR 国際アドバイザー、前・中国水利部国際部長)、Dr. Jing Peng (IWHR 国際協力部長)、Dr. Dongya Sun (IWHR 防洪減災研究所)、Ms Iris Zhou (IWHR 国際協力部)、Dr. Kyu Chang Oh (韓国・東部エンジニアリング専務)



情報委員会の様子



参加者での記念撮影

第1回 ARRN 技術委員会 (2008年9月24日：北京)

2008年9月24日(水)午後、「第1回 ARRN 技術委員会」が同じく中国・北京(中国水利水電科学研究院)にて開催されました。

本委員会では、ARRNとして共有すべき河川環境分野の技術情報や、ARRN設立目的の一つであるアジアにおける河川再生のガイドラインのあり方について議論が行なわれ、この協議結果を踏まえ、ARRN事務局が河川再生ガイドラインの構築作業に着手し、日中韓での継続的な協議を行いながら、その成果としてのガイドラインを取りまとめていきます。

■会議参加者

(技術委員)

Dr. Yangwen Jia (IWHR 中国水利水電科学研究院・水資源研究所)

Dr. Kyu Chang Oh (韓国・東部エンジニアリング専務)

伊藤一正 (代理出席：RFC リバーフロント整備センター・上席参事)

(ARRN 事務局)

伊藤将文、和田彰 (RFC リバーフロント整備センター)

(オブザーバー)

Dr. Zheren Dong (GWP 中国代表、IWHR 上席アドバイザー)、Dr. Jing Peng (IWHR 国際協力部長)、Dr. Dongya Sun (IWHR 防洪減災研究所)、Ms Iris Zhou (IWHR 国際協力部)、Dr. Hong Koo Yeo (KICT 韓国建設技術研究院・上席研究員)



技術委員会の様子



参加者での記念撮影

国際交流・広報活動

ARRN の活動を広くアジアに紹介し会員の増加を図ることを目的として、河川に関する国際会議や学会活動、また関連組織との意見交換を通じ ARRN の PR 活動を実施しています。

韓国・東豆川市関係者との河川再生事例に関わる意見交換（2007年11月29日：東京）



2007年11月29日（木）に、韓国・東豆川市より河川再生現場の視察目的で調査団が来日し、ARRN/JRRN 事務局関係者との河川再生に関する意見交換を行いました。日本における河川環境改善の取り組みや ARRN の活動概要について説明させて頂き、また韓国の自治体レベルでの河川再生のニーズ等についてお話を伺うことが出来ました。

韓国・河川表示や情報提供に関する調査団との意見交換（2007年12月7日：東京）



2007年12月7日（金）、韓国建設技術研究院（KICT）や韓国水団体総連合会の専門家の方々が来日され、河川における表示や利用、情報提供などに関する意見交換とともに、ARRN の活動概要を紹介させて頂きました。

NARBO（アジア河川流域管理機関ネットワーク）事務局との意見交換（2008年1月9日：東京）



2008年1月9日（水）に ARRN/JRRN 事務局と NARBO（アジア河川流域管理機関ネットワーク）事務局の意見交換を行いました。NARBO は統合水資源管理（IWRM）の推進を主な目的として2004年に設立された国際ネットワークで、水環境改善分野で今後益々の協働が期待されます。

PEMSEA（国連東アジア海域環境管理局）事務局との意見交換（2008年1月9日：東京）



2008年1月9日（水）に ARRN/JRRN 事務局と PEMSEA（国連東アジア海域環境管理局）事務局の意見交換を行いました。PEMSEA は、世界最大の環境基金 G E F のプロジェクトを国連開発計画（UNDP）の管理のもとに実行する国際機関で、東アジア各地でのプロジェクト実施に対する技術支援や知識の普及などを行っています。沿岸域管理には内陸側の流域管理も不可欠であり、今後の協働が期待されます

第3回 NARBO (アジア河川流域機関ネットワーク)総会参加 (2008年2月22日：インドネシア)

2008年2月22日(金)にインドネシア国スラカルタ市において第3回 NARBO (アジア河川流域機関ネットワーク)総会が開催され、JRRN として NARBO に加入するとともに、ARRN の概要や取り組みについて、同時に開催されたワークショップで講演を行ないました。



NARBO 総会の様子



総会参加者による記念撮影

韓国・水生態復元事業団との意見交換 (2008年5月28日：東京)



2008年5月28日(水)、韓国より Center for Aquatic Ecosystem Restoration (水生態復元事業団) の方々が来日され、日本の河川再生に関連する政策、研究、事業などに関する意見交換を行いました。

水生態復元事業団は、2007年11月に韓国環境省により設立された事業団で、2014までの間に水環境の再生に関する16のプロジェクトを実施し、各プロジェクトは公募により選ばれた「大学と民間企業のJVチーム」で構成されています。今後のARRNとの河川再生分野の情報交換が期待されます。

韓国・河川協会視察団の来日支援 (2008年6月4日：石川)

2008年6月4日(水)～8日(日)にかけて、韓国河川協会の海外視察団(41名)が石川県を中心に北陸地方の河川・水辺の視察を目的に来日し、「アジア河川再生ネットワーク(ARRN)」事務局として国内受入機関(加賀市、石川県土木部、小松・加賀水郷再生協議会、北陸応生態工学会等)との調整役を担うとともに、金沢市内を流れる犀川視察では、ARRN 玉井会長が視察団に同行しました。北陸地域の河川や水郷再生事例の視察を通じ、河川環境再生分野での意義ある日韓交流となりました。



視察支援の様子

英国リーズ大学環境学部研究員 Dr. Ulrica Aberg 氏との意見交換 (2008 年 6 月 26 日 : 東京)



2008 年 6 月 26 日 (木)、ARRN 事務局と英国リーズ大学環境学部研究員 Dr. Ulrica Aberg 氏との意見交換を行いました。Dr. Ulrica Aberg 氏は、河川再生事業の日本とヨーロッパの比較に関する研究に取り組み、日本に短期滞在しながら、日本のフィールド調査や事例・情報収集を行っています。ARRN 事務局より日本の河川環境行政の変遷、主な施策や事例、河川再生事業の進め方、これまでの事業に関する評価などについて概要を説明し、英国における河川再生事情に関する情報も提供いただきました。

韓国・「健やかな道林川をつくる市民の会」との意見交換 (2008 年 7 月 15 日 : 東京)

韓国ソウル市内の道林川(ドリムチョン)をフィールドに活動する「健やかな道林川をつくる市民の会」の代表を含むメンバー14名が来日し、ARRN 事務局との意見交換を行いました。「健やかな道林川をつくる市民の会」は1999年から活動を開始し、「元気な道林川を創るために道林川流域と冠岳地域の環境を地域住民とともに守り、持続可能な社会と自然と人間が共存するより良い生活を追い求めること」を活動の目的としている会員約300名の団体です。意見交換会では、ARRN 事務局より日本の河川環境行政の歴史や現在の河川再生に向けた事業、また子供達や市民が主体となった河川再生の取り組みについて紹介しました。また道林川NPOからの子供達の活動について発表の後、様々な意見交換を行いました。



意見交換会と記念撮影の様子

各国内ネットワークの活動報告(2008年)

中国河川・流域再生ネットワーク(CRRN) : China River Restoration Network

CRRN ホームページ

現在、CRRN では 2009 年中の公開を目標にホームページの作成準備を進めております。中国の河川の特徴や技術情報、また河川再生事業の進捗状況などについてホームページを通じて情報発信していく予定です。

現在実施中の研究活動

河川再生事業の適応性ある管理に向けた意思決定システムの開発支援

中国水利部主導の下で、河川再生事業の適応性ある管理に向けた意思決定システムの開発研究を実施しています。この事業は、CRRN の事務局を担う IWHR が中心に取り組み、河川再生に関わる基本的な情報共有システムとして、基礎情報データベースから解析モデル、GIS による技術開発ソフト、更には異なったモデルの統合まで多岐に及んでいます。また、このシステムは、物理化学的評価モデル、水文評価モデル、生態評価モデル、生息環境モデル、社会経済や生態系全体の評価モデル等で構成されています。このシステムが発展すれば、河川再生事業の計画、実施、評価に際しての技術的な支えとなることでしょう。

河川再生に関わる中国版技術指針の作成

現在の中国における河川が抱える諸問題を鑑み、中国の様々な地域で河川再生事業を進めるための河川再生技術指針の作成に取り組んでいます。技術指針の作成に際しては、中国国内でのこれまでの経験はもちろんのこと、日本、韓国、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの海外の優れた技術や経験も参考にしています。

この技術指針は、調査、計画、設計、モニタリング、事業評価、維持管理といった項目で校正され、今後、中国において科学的に、かつ合理的に河川再生事業を推進する上で大いに役立つことと期待しています。

受賞実績

“Theory Research and Demonstration Projects of River Restoration in China” と題する研究開発事業が、2008 年の中国水利部主催の水工学会 Dayu 賞の金賞に表彰されました。この事

業は IWHR、Zhejiang Province の水資源部、また Shenzhen City 水務局が共同で実施され、以下の 7 項目で構成されています。

- Ecological influence and mechanism analysis of hydraulic and hydroelectric projects.
- Planning and evaluation of river ecological restoration projects.
- Ecological hydraulics for the evaluation of river training works.
- Restoration techniques of river corridors.
- Reservoir re-operation technologies for downstream ecological benefits.
- Ecological technologies to treat polluted water bodies.
- Construction and evaluation of 5 demonstration projects.

河川再生に関わる技術講演会

2005 年 10 月 24 日～25 日に、中国水利部が主催となり、Hangzhou City を会場に河川再生に関わる講演会が開催されました。本行事の関連情報や技術論文等は以下よりダウンロードが可能です。

<http://www.cws.net.cn/zt/2005hst/>.

2008 年 7 月 18 日～22 日には、Guangzhou city にて、China Society of Environmental Sciences 主催の「水環境汚染と河川再生に関わるシンポジウム」が行われ、関連情報は以下より入手可能です。

http://www.chinaces.org/CN/News/2008-07/EnableSite_ReadNews93824541216224000.html

2008 年 10 月 24 日～26 日には、北京師範大学の中国河川再生センターが主催となり、「第 1 回河川再生シンポジウム」が開催されました。

<http://www.china-river.org/contacts.asp>

2008 年 9 月 20 日～22 日には、Anshun city において、China Hydraulic Engineering Society 主催の「第 8 回環境及び生態水理学会」が開催されました。

http://www.chinawater.com.cn/newscenter/kx/200809/t20080925_230711.htm

2008 年 12 月 23 日～25 日には、Kunming City にて「中国における水と土壌保全及び河川再生」と題した講演会も予定されています。

http://chinawater.org.cn/news/sel_ones.do?id=6045.

韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN) : Korea River Restoration Network

KRRN について

KRRN は、ARRN の韓国における窓口組織として、河川や水辺再生に関わる有益な情報を韓国国内で循環させ、また人材交流を促進することを通じ、各地域に相応しい河川再生技術やその進め方等を発展させることに寄与することを目的として活動しています。

2008 年の主な活動実績

第 4 回河川環境に関わる国際ワークショップ (2008 年 6 月 2 日～4 日, IIsan KOREA)



2008 年 6 月 2 日～4 日の 3 日間、KICT において「第 4 回河川環境に関わる国際ワークショップ」が KRRN 協力のもとで開催されました。

「治水と環境が両立できる河川再生技術の展望」と題したこのワークショップでは、各国からの専門家により、それぞれの国の河川再生に関する話題が提供されました。韓国国内の専門家と海外招聘者との意見交換会では、韓国の都市河川再生に関わる濃厚な議論が交わされ、その後関係者一同で Yangjae 川、Gyeongan 川、Cheonggye 川などの河川再生現場を視察しました。

なお、本行事に参加された海外講師の方々は以下の通りです。

<海外招聘講師>

Dr. Thomas Byron Hardy (USA)

Dr. Keigo Nakamura (Japan)

Mr. Bruno Schelbert (Switzerland)

Dr. Wilfried ten Brinke (The Netherlands).



第 6 回日韓河川生態と河川工学に関する共同セミナー(2008 年 8 月 18 日～19 日, Jinju KOREA)



2008 年 10 月 18 日～19 日の 2 日間、「第 6 回日韓河川生態と河川工学に関する共同セミナー」が KRRN 支援の下、Jinju National University で開催されました。

本行事は、「都市及び郊外での河川と湿地の再生」というテーマで開催され、洪水管理と両立した中で如何に河川生態に最大の

配慮を出来るかといった観点の議論がなされました。合わせて、その為の原理とケーススタディとして、11の論文口頭発表及び19のポスター発表が日韓それぞれから行われました。

講演会の後は、関連する河川・水辺再生の現場として、Young 川や Jugyo 川の Eori Marsh in など視察しました。



再生前（左）及び再生後（中央）、また現地視察の様子（右）

KRRN からのお知らせ

KRRN は、ARRN が設立した二つの常設委員会の委員として、情報委員に Dr. Hong Koo Yeo (KICT)、また技術委員に Dr. Kyu-Chang Oh (Dongbu Eng. Co. Ltd.) の 2 名の専門家を任命しました。両名とも、韓国における河川再生の技術指針の収集を図りつつ、それらを ARRN メンバーへ提供していく予定です。

また、KRRN の事務局が、KICT（韓国建設技術研究院）から KRA（韓国河川協会：<http://www.riverlove.or.kr>）に移管したことをご報告します。KRA は、Dr. Kugil Kim 氏が会長を務め、2004 年に設立された公益法人です。現在約 1000 名の会員を抱え、13 の技術及び運営委員会を持ち、技術委員会には「河川環境委員会」も含まれます。

KRRN 事務局長も、Dr. Hyoseop Woo 氏から、これまで KRRN 事務局窓口を務めていた Dr. Changwan Kim 氏に交代となりました。（共に KICT 所属）



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) : Japan River Restoration Network

JRRN について

「日本河川・流域再生ネットワーク (Japan River Restoration Network ; JRRN)」は、ARRN の日本窓口組織として、日本国内における河川・流域再生に関する情報循環促進と人材交流支援を通じ、会員間のコミュニティを上げながら各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指しています。

■ JRRN の活動理念

水辺の再生から日本の元気を取り戻す！

人と水の関わりの再生活動を通じ、次世代に豊かな水環境を引き継ぎ、健やかな川・人・地域・社会づくりに貢献します。

■ JRRN の活動ビジョン

■ ネットワークの拡大

河川や流域の再生に関心を持つ人々を増やします。また、これまで事業の中心的役割を担ってきた行政関係者や実務者のみならず、個人や市民団体、企業等が再生の取り組みに参画できる仕組みをつくります。

■ 情報の循環

参画する人々が、河川や流域の再生に関する情報を提供し、それを必要とする人々に平等に行き渡らせ、受け取ることのできる仕組みをつくり、参加者の知識・技術の向上を図ります。また、ここで循環する情報を、体系整理して蓄積します。

■ コミュニティの構築

河川や流域の再生に関わる個人・組織が自由に交流できる人の繋がりを築きます。また人々が各々の立場でネットワークに関与し、協働して河川や水辺の再生に取り組むことができる場を整えます。

■ イベント企画・開催

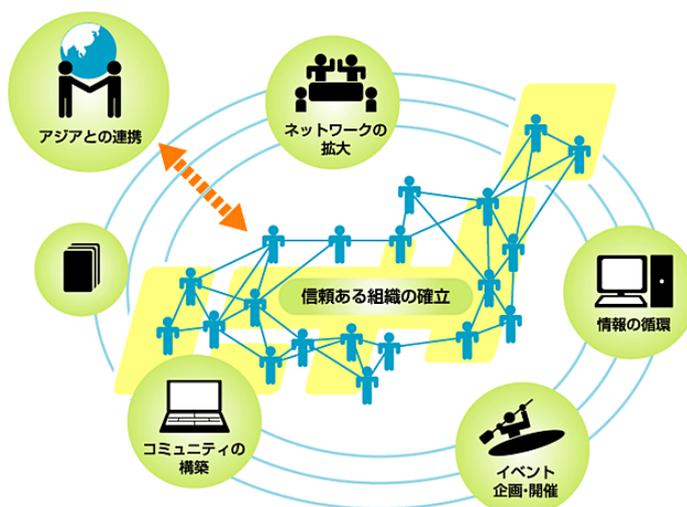
河川や流域の再生に関する意識が広く人々の間で醸成され、また再認識されるよう、多様なイベントを企画します。また、この機会を通じ、ネットワーク活動の活性化を図ります。

■ アジアの国々との連携

ARRN の窓口として、中国、韓国をはじめとするアジアモンスーン地域との連携を強め、河川や流域再生に関する情報や、各国のネットワーク運営に関する課題・解決策を相互に共有できる仕組みをつくります。

■ 信頼ある組織の確立

理念に向けた河川や流域の再生に関する取り組みを円滑に進めることができるよう、運営主体の組織体制および活動体制を整備し、社会的信用のある透明性の高い組織を目指します。



■ JRRN の会員構成 (2008年11月現在)

【組織会員】17 団体

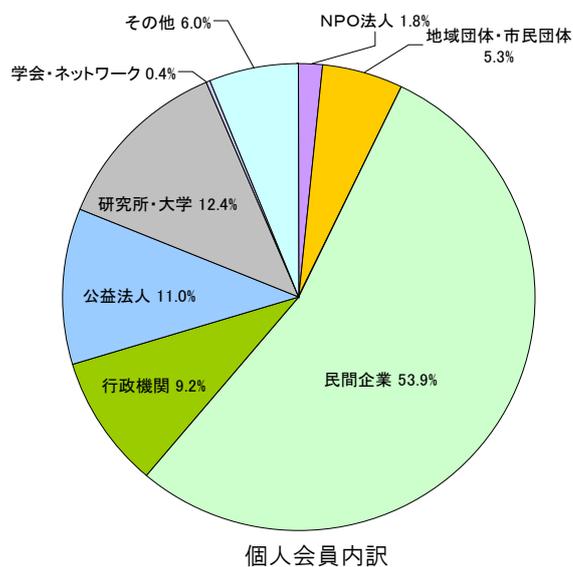
(内訳)

民間企業 77%、行政機関 6%、市民団体・NPO 17%

【個人会員】282 人

(内訳)

民間企業 54%、行政・公共機関 20%、研究機関 13%
市民団体 8%、その他 5%



JRRN の主な活動一覧 (2007年11月～2008年10月)

年	月日	活動の種類	活動内容	開催場所
2007	12月11日	情報発信	ARRN/JRRN年次報告書2007 配信・web公開	
	12月28日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年1月号(Vol. 7) 配信・web公開	
2008	1月9日	交流・広報活動	NARBO (アジア河川流域管理機関ネットワーク) 事務局 意見交換	日本 (東京)
	1月21日	イベント開催	河川再生ワークショップ「中国の河川再生と河川環境保全」 開催	日本 (東京)
	1月29日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年2月号(Vol. 8) 配信・web公開	
	2月20日～22日	交流・広報活動	第3回 NARBO (アジア河川流域管理機関ネットワーク) 総会 参加	インドネシア (ヨロ)
	2月28日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年3月号(Vol. 9) 配信・web公開	
	3月31日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年4月号(Vol. 10) 配信・web公開	
	4月1日	情報発信	JRRNホームページ 英語版のリニューアル公開	
	5月7日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年5月号(Vol. 11) 配信・web公開	
	5月20日	情報発信	JRRNニューズメール 第100号配信	
	6月2日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年6月号(Vol. 12) 配信・web公開	
	6月30日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年7月号(Vol. 13) 配信・web公開	
	7月18日	イベント開催	第1回 JRRN河川環境ミニ講座「環境流況」 開催	日本 (東京)
	8月6日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年8月号(Vol. 14) 配信・web公開	
	9月8日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年9月号(Vol. 15) 配信・web公開	
10月3日	情報発信	JRRNニューズレター 2008年10月号(Vol. 16) 配信・web公開		

JRRN 主催行事

河川再生に関わるミニ・ワークショップ「中国の河川再生と河川環境保全」(2008年1月21日:東京)

2008年1月21日(月)、JRRN主催で河川再生に関わるミニ・ワークショップ「中国の河川再生と河川環境保全」が開催され、中国の水資源や水環境の現状を踏まえた中国河川再生の最新の話題をご提供頂くと共に、参加者との活発な意見交換が行われました。



○講師: 李 建華 同済大学教授(中国・上海)・長江水環境教育部重点実験室副主任・上海市科学委員会崇明水環境実験室主任

○日 時: 平成20年1月21日(月) 15:00～17:00

○会 場: (財)リバーフロント整備センター

第1回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流況」(2008年7月18日:東京)

2008年7月18日(金)、第1回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流況～流水の正常な機能の維持に向けて～」が開催され、平常時の流水管理や諸外国における最近の環境流量の考え方などについて話題をご提供頂くと共に、参加者との活発な意見交換が行われました。



○講師: 大町 利勝 氏
(JRRN 会員・八千代エンジニアリング株式会社)

○日 時: 平成20年7月18日(金) 15:30～17:30

○会 場: (財)リバーフロント整備センター

JRRN ホームページ <http://www.a-rr.net/jp/>



JRRN では、川や水辺の再生に関する人々が、互いに河川や流域の再生に関する情報を提供・交換できる仕組みづくりを目指し、その手段の一つとしてホームページの充実化に取り組んでいます。

本ホームページは、河川や水辺環境再生に取り組む市民団体・行政関係者・民間実務者・研究者などを対象に、河川再生に関する国内外の話題、再生事例、地域活動、専門技術、ニュース、書籍、論文、遊び等々の様々な情報を日本語と英語で掲載しています。

<p>JRRN紹介</p> <p>JRRN の目的、活動内容、会員登録方法などの紹介</p>	<p>水辺の活動</p> <p>市民団体や学校など、様々な水辺に関連した活動報告・体験談を紹介</p>
<p>最近の話題・ニュース</p> <p>川や水辺の再生に関する最新のトピックやニュースを紹介</p>	<p>水辺を楽しむ</p> <p>水辺の遊び、スポーツ、文化など、水辺を楽しむための情報を紹介</p>
<p>イベント情報</p> <p>川や水辺にまつわるイベントや講演会などのイベント情報掲示板</p>	<p>水辺を見る・知る・学ぶ</p> <p>川や水辺の体験施設、楽しいホームページなどを紹介</p>
<p>情報交換・交流</p> <p>皆様との情報交換を目的としたページ</p>	<p>書籍・教材・論文</p> <p>川や水辺に関する知識を深めるための書籍を紹介</p>
<p>日本と世界の水辺</p> <p>国内外の水辺再生の事例、美しい水辺の写真などの情報閲覧所</p>	<p>人・組織のつながり</p> <p>国内外の川や水辺に関するリンク集</p>

JRRN ホームページの構成

JRRN ニュースレター

JRRN ニュースレターを月一回の頻度で配信しており、JRRN 会員と JRRN の活動を共有する上で有効な手段となっています。すべてのバックナンバーはホームページよりダウンロード可能であり、詳細は以下の URL をご参照下さい。

バックナンバーURL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/>

各ニューズレターの主な特集記事及びバックナンバー表紙一覧（2007年11月号～2008年10月号）



2007年11月号



2008年1月号



2008年2月号



2008年3月号



2008年4月号



2008年5月号



2008年6月号



2008年7月号



2008年8月号



2008年9月号



2008年10月号

年月(vol.)	主な特集
2007年11月号(vol. 6)	JRRN 共催「川からの都市再生～台湾・高雄市 愛河」開催報告・「マレーシアの河川事情」
2008年1月号(vol. 8)	「第4回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」開催報告・「第1回アジア・太平洋水サミット」参加報告
2008年2月号(vol. 9)	JRRN 主催「中国の河川再生に関わるミニワークショップ」開催報告・「日本橋川の舟遊イベント」参加報告
2008年3月号(vol. 10)	JRRN の NARBO 加入報告・インドネシア国スラカルタ市訪問記
2008年4月号(vol. 11)	JRRN ホームページ英語版リニューアル報告・ARRN 事務局報告・清溪川視察報告
2008年5月号(vol. 12)	平成19年度活動報告及び今年度活動報告・「目黒川今昔下流編」
2008年6月号(vol. 13)	JRRN ホームページ新機能紹介・「目黒川今昔上流編」
2008年7月号(vol. 14)	「韓国河川協会視察支援」報告・「第4回国際河川環境ワークショップ(韓国)」参加報告
2008年8月号(vol. 15)	「第1回 JRRN 河川環境ミニ講座」開催報告・「韓国・道林川NPO」意見交換会報告
2008年9月号(vol. 16)	JRRN 河川再生事例収集活動紹介・「日韓河川生態セミナー」参加報告
2008年10月号(vol. 17)	ARRN 主催「河川環境講演会」開催報告・「第1回 ARRN 情報・技術委員会」開催報告・「由良川フォーラムと WakWak プロジェクト」

JRRN ニュースメール

JRRN ニュースメールは、週 2 回の頻度で JRRN 会員向けに発行しています。主なコンテンツは、国内外における河川環境に関連するトピック、ニュース、また JRRN 会員からの情報や、JRRN 事務局からのお知らせ、イベント情報などで構成されています。

なお、すべてのバックナンバーはホームページで見ることが可能です。

バックナンバーURL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsmail/>

JRRN ニュースメールのサンプル (2008 年 5 月 19 日配信 第 100 号)

JRRN ニュースレター100号 河川・流域に関する最新記事 (2008 年 5 月 16 日～19 日) 発信: JRRN 事務局

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN: <http://www.a-rr.net/jp/>) よりニュースメールをお送り致します。当ニュースメールは、会員であれば複数のメールアドレスを配信先に登録可能です。また「こんなニュース報道を集めて欲しい」「こんな情報を発信して欲しい」等のご要望も会員皆様より随時受け付けておりますので、『info@a-rr.net』までご連絡下さい。

■JRRN 事務局からのお知らせ■

●Google マップによる地図情報サービス開始。

JRRN ホームページ内で紹介している河川・水辺に関する施設や現場の位置情報を Google マップを利用して提供するサービスを試験的に開始しました。○詳しくはこちらから→<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/675.html>

●「JRRN Newsletter No. 11 (2008 年 5 月)」が配信されました。JRRN Newsletter 第 11 号では、都市河川目黒川 (下流部) の今昔を紹介しています。○詳しくはこちらから→<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/>

■河川再生に関わるイベント情報■

今後開催される河川再生や水環境改善に関連するイベント情報が確認できます。

○詳しくはこちら→ <http://www.a-rr.net/jp/event/>

■水辺全般■

●韓流ウッド: 京畿道、最終マスタープラン発表

朝鮮日報 - 2008 年 5 月 19 日

記事全文→<http://www.chosunonline.com/article/20080519000058>

●吉野川河口干潟、空き缶など収集 NPO 法人が清掃活動

徳島新聞 - 2008 年 5 月 17 日

記事全文→http://www.topics.or.jp/contents.html?m1=2&m2=&NB=CORENEWS&GI=Kennai&G=&ns=news_121109176638&v=&vm=1

●環境市民センター: 三番瀬の再生を目指す NPO が 20 周年、実践を本に / 千葉

毎日新聞 - 2008 年 5 月 16 日

記事全文→<http://mainichi.jp/area/chiba/news/20080517ddl1k2040177000c.html>

■都市の水辺■

●「水都大阪」見直し…知事と平松市長、船上会談で合意

読売新聞 - 2008 年 5 月 19 日

記事全文→http://osaka.yomiuri.co.jp/tokusyu/h_osaka/ho80519a.htm?from=tokusyu

■生態系■

●生物マップ: 松本・女鳥羽川に生息する生物を一目で 自然を考える会が製作中 / 長野

毎日新聞 - 2008 年 5 月 19 日

記事全文→<http://mainichi.jp/area/nagano/news/20080519ddl1k20040168000c.html>

●木津川の植物保全を考える

京都新聞 - 2008 年 5 月 17 日

記事全文→<http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2008051800028&genre=H1&area=K20>

●絶滅危惧植物「ミズアオイ」住民らが保全へ 福井・鶯地区

福井新聞 - 2008 年 5 月 17 日

記事全文→<http://www.fukuishimbun.co.jp/modules/news2/article.php?storyid=4000>

日本河川・流域再生ネットワーク 事務局
(JRRN: Japan River Restoration Network)

ARRN 組織体制及び会員

ARRN 組織体制

国内ネットワーク (River Restoration Network)

ARRN は参加各国・地域のネットワークの連携で組織され、それら国・地域レベルのネットワークを「River Restoration Network (以下、RRN)」と総称します。国内ネットワークは各地域内での自由な活動が奨励されています。

運営会議 (Governing Council)

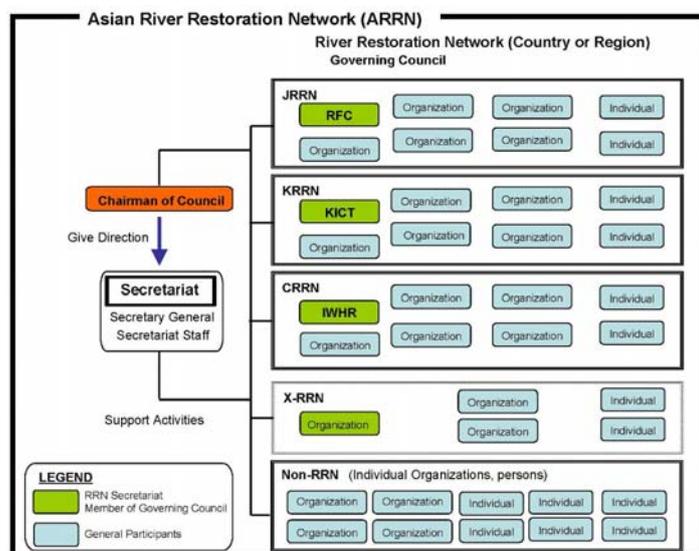
ARRN の運営方針は各国内ネットワークの代表者よりなる「運営会議」にて決定されます。運営会議は、会議で承認された議長（会長）により総括され、ARRN の年間活動計画、予算計画等の決議を行います。「RRN」の代表者は運営会議の議員となり、参加国の全議員より「Council」が構成されます。

運営事務局 (Secretariat)

運営会議は、運営会議に決議された「運営事務局」により開催されます。運営事務局は運営会議の他、ARRN の活動を遂行します。

その他一般参加者 (General Participants)

上記以外に、ARRN の運営に直接携わらずフォーラム等のイベントや Web サイトの利活用をする者を「一般参加者」と総称します。一般参加者は、各 RRN の定める規約に従い参加登録等を行った者や、ARRN に直接参加を表明した者の総称し、個人、団体を問いません。



ARRN 組織概要図

ARRN 会員（2008年11月現在）

現在、国内ネットワークとして3団体、また組織会員として1団体で構成されています。

■ 国内ネットワーク（River Restoration Network）

中国河川・流域再生ネットワーク（CRRN）：China River Restoration Network

【事務局】中国水利水電科学研究院（IWHR）

<http://www.iwhr.com/english.asp>

【組織会員】 -

【個人会員】 -

韓国河川・流域再生ネットワーク（KRRN）：Korea River Restoration Network

【事務局】韓国建設技術研究院（KICT）

<http://www.kict.re.kr/eng/index.asp>

【組織会員】 -

【個人会員】 -

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）：Japan River Restoration Network



<http://www.a-rr.net/jp/en/>

【事務局】財団法人リバーフロント整備センター（RFC）

<http://www.rfc.or.jp/english/top.htm>

【組織会員】17団体

【個人会員】282人

個人会員構成内訳

民間企業54%、行政・公共機関20%、研究機関13%、市民団体8%、その他5%

※2006.11～2010.10までJRRN事務局がARRN事務局を担います。

■ 組織会員（Non-RRN member）

タイ天然資源環境省水資源局：Department of Water Resource, Thailand

<http://www.water.go.th/>

ARRN 運営事務局

ARRN 設立（2006 年 11 月）から第Ⅰ期（～2008 年 10 月迄）、及び第Ⅱ期（～2010 年 10 月）の計 4 年間は、日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）事務局が ARRN 運営事務局を担います。

■ 事務局構成員

事務局長	佐合 純造
	伊藤 一正
	伊藤 将文
	和田 彰
	丹内 道哉

■ 連絡先

アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN） 運営事務局

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内

〒102-0082 東京都千代田区一番町 8 番地一番町 FS ビル 3 階

TEL: 03-3265-7121 FAX: 03-3265-7456

E-mail: secre@a-rr.net

Website: <http://www.a-rr.net/>

参考資料

第4回世界水フォーラム・自然再生分科会の提言(2006年3月・メキシコ)

2006年3月、メキシコシティで開催された第4回世界水フォーラム内の自然再生に関する日本、中国及び韓国3ヶ国による合同分科会の場において、中国、日本、韓国、マレーシア、UNESCO-IHEの各国、機関の関係者のパネルディスカッションを踏まえて以下の提言が成されました。本提言を受ける形で、アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）が2006年11月に設立されました。

- It has been realized that river restoration is of vital importance to socio-economic sustainable development in parallel with flood management and water use management.
- It is necessary to recognize that the basin as a basic unit for management, that the river environment is dynamic, and that the environment of the various rivers is maintained by dynamic disturbance.
- It is necessary for the countries in Asian monsoon region to establish the suitable methodology and technology for river restoration, considering dense population, frequent and severe flooding, and abundant rice paddy.
- In Asian monsoon region human-influence to a cultural landscape is harmonized with the ecosystem traditionally. Those landscapes that have been modified by humans over long periods are often also important for nature as well as culture.
- It is important to develop a database and Asian network of projects and knowledge of international experts in river restoration. River restoration is a multi-disciplinary and multi-organizational task that should be supported by river engineers, environmental scientists, ecologists, water managers and the public.
- It is urgent to establish a river restoration guideline suitable for the Asian monsoon region as a reference for countries with similar social and natural conditions.

(Quote from "Session output" on 4th World Water Forum's "River Restoration in Asian Monsoon Region")

ARRN 加入方法

Joining the ARRN is Free!

To become member of ARRN, please read the following instruction, and send a membership application form to secre@a-rr.net by email.

Membership Benefits

- (1) Easy obtaining of domestic and foreign information on river restoration through website, email, and direct contact to ARRN secretariat or other ARRN members as following;
 - Latest news, topics, projects, experiences, lessons, case studies
 - International and domestic events such as seminar and workshops
 - Standard books, technical guidelines, video images, etc.
- (2) Holding opportunity to introduce member's organization and their activities to other ARRN members
- (3) A coordinated business with various foreign countries or organizations
- (4) Holding management support such as international seminar, workshops and establishment of regional river restoration network by ARRN secretariat

Possible Tasks

- (1) Members will participate in ARRN with commitment to use their own resources and to work effectively in partnership with other members that are collaborating in the network. Members will support the objectives of ARRN described in the charter. (<http://www.a-rr.net/charter.html>)
- (2) Members can freely inspect the Web site, and moreover, useful information on river restoration in your organization and your region can be freely sent through the Web site for other members.
- (3) Members positively join for ARRN events such as international forum and the workshop by each RRN sponsoring. Also, every member can hold original workshop by receiving the backup of ARRN or RRN.
- (4) Members cooperate positively when the specialist's technical advice is required or the advanced case investigation committee is sent to another region.
- (5) Members share the information sent by ARRN with related persons in your organization.

Procedure for joining ARRN

- (1) An organization which wants to join ARRN is requested to submit a membership application form by email. (Attached the following page)
- (2) The membership application form submitted by the organization is judged by the Secretary General and the Chairperson of ARRN.
- (3) After the Chairperson of ARRN approves the membership application form, the organization becomes the ARRN member as a Non-RRN organization. (Refer to the following ARRN Organizational Structure)
- (4) ARRN secretariat will send email soon to the contact person named in the application form.
- (5) When plural groups gathered in a certain country or regions, the ARRN secretariat supports the establishment of each RRN. The establishment of new RRN will be judged by ARRN governing council meeting.

Note)

In a country/region which RRN secretariat has already established, applicants to ARRN should be registered through the RRN secretariat. (China, Korea, and Japan)

For further information, please contact to secre@a-rr.net by email.

ARRN Membership Application Form for organization (MS-WORD:601kB) is available here. <http://www.a-rr.net/jp/en/arrn/docs/appform.doc>



Asian River Restoration Network Secretariat アジア河川・流域再生ネットワーク 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内

〒102-0082 東京都千代田区一番町8番地一番町FSビル3階

TEL: 03-3265-7121 FAX: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net

Website: <http://www.a-rr.net/>



ARRN(Asian River Restoration Network)は2006年11月に設立されました。設立後4年間は、日本支部であるJRRN(Japan River Restoration Network)がARRN事務局を担います。現在、財団法人リバーフロント整備センターがJRRN事務局を運営しています。 <http://www.a-rr.net/jp/>

※表紙写真：中華人民共和国・辛江塘河（浙江省海寧市）

2009.3版